

2024年度 衛星劇場 番組審議委員会 議事概要

松竹ブロードキャスティング株式会社

1. 開催年月日

令和6年6月20日（木）11:30～12:30

2. 開催場所

コートヤード・マリオット 銀座東武ホテル 会議室

3. 委員の出席

委員総数 9名

・出席委員数 6名

太田 博、松本 行央、植草 信和、相坂吉郎、田中 絵美子、村居俊彦

・欠席委員数 3名

堀江 ミエ子、中村 歌六、小野寺 重之

放送事業者 出席 7名

井田 寛 代表取締役社長

大谷 二郎 代表取締役副社長

鵜澤 由紀 マーケティング部門・事業戦略部門担当 取締役

深田 誠剛 衛星劇場部門・オリジナル映画製作部門プロジェクト担当 執行役員

妹尾 祥太 衛星劇場部 部長

山野井 崇之 経営企画室室長/番組審議委員会事務局

小原 明子 マーケティング部広報担当/番組審議委員会事務局

4. 議事概要

(1) 報告事項

鵜澤取締役から以下について報告した。

- ・マーケット状況報告
- ・視聴者からの番組内容、編成内容に関する問い合わせ等について

(2) 審議内容

- ・衛星劇場の番組内容、編成内容についての意見

各委員からのコメント・質疑応答は以下のとおり。

「スクリーンで輝いた80sアイドル映画まつり」特集について

番組審議委員 意見

・チャンネル業界全体で加入者減、解約増というトレンドになってきている中で、配信に出ていないような作品（本田美奈子出演『パッセンジャー 過ぎ去りし日々』ほか）を編成することはチャンネルにとって一つの強み、特徴になる。また、こういったアイドル特集は、他チャンネルでは視聴できないため、差別化に繋がるのではないか。

・映像コンテンツは従来テレビが見せるものだったのに対し、配信サービスの台頭により選ぶもの変わった。配信サービスは、何万本の中から選ぶ必要があり、そういった意味で選択疲れが出てきていると思う。今後、TVに回帰する可能性もある。その時に、衛星劇場が過去の貴重作品など発掘し、放送していることが重要なのではないか。

事業者 回答

・貴重作品や、配信に出ていない、またテレビで放送されていないような作品を調達できるように努力していく。

「高峰秀子特集生誕100周年記念特集」ほか映画編成について

番組審議委員意見

・衛星劇場は旧作、名作などが視聴できることが魅力の一つ。サイレント映画「與太者と海水浴」に活弁をつけてテレビ初で放送したということだが、観てもらえるような仕掛けをもっとしていくべき。

事業者回答

・昨年、小津安二郎の生誕120周年の際に、国内外から再評価された。いかに今の視聴者に観てもらえるかが大事。今後、野村芳太郎監督が没後25周年を迎える。再度、評価されるような仕掛けを、松竹ともタッグを組んで取り組んでいきたい。

その他意見

番組審議委員質問

中国ドラマ（「安楽伝」「七時吉祥」ほか）を編成しているが、加入は取れているのか。

事業者回答

加入は一定数取れるようになってきている。中でも時代劇が人気。ただし、韓国ドラマほどではない。中国人俳優が日本でのファンミなどを行っていないのもブームになりづらい要因ではないかと分析している。視聴者を増やす工夫として、当社で放送する中国ドラマのナビ番組を製作し、YOUTUBEなどで公開をしている。

以上